

第8期多摩区地域福祉計画の策定について

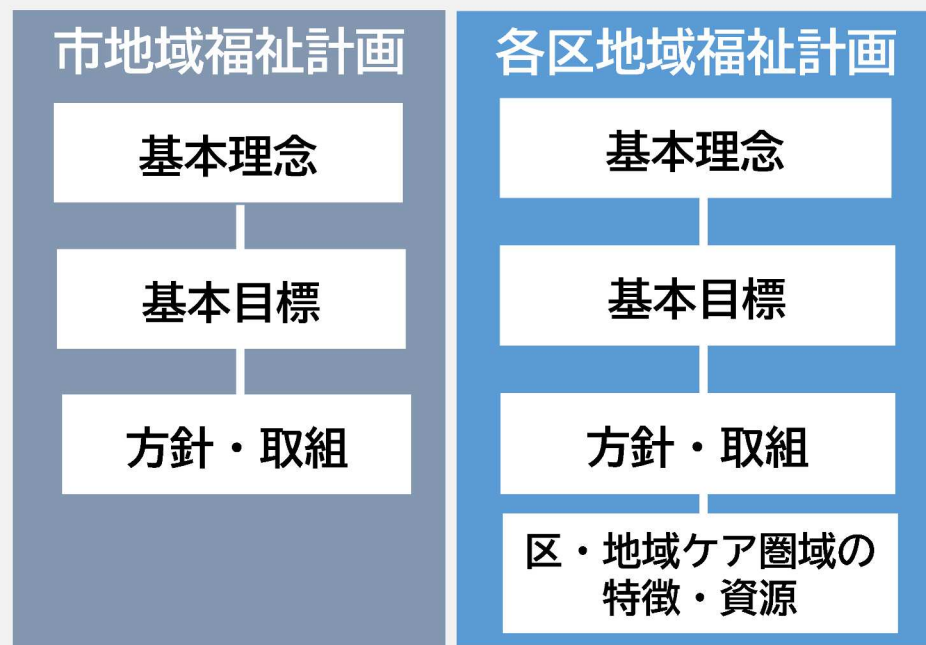


1. 第8期地域福祉計画策定の指針

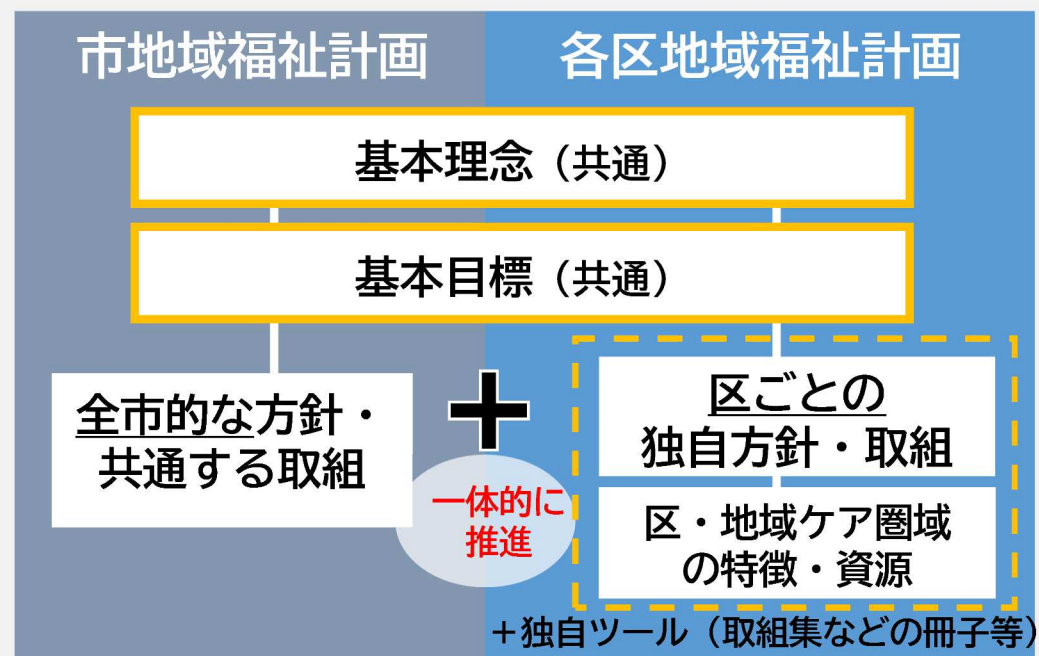
1 (1) 第8期計画の全体像について

- ・「基本理念」「基本目標」は市と区で共通となり、「方針・取組」は市と各区がそれぞれ設定する。
 - ・市計画とあわせて、区ごとの独自方針や重点的な取組をまとめた区計画を掲載した冊子とする。
 - ・区計画には区域や地域包括ケア圏域の概況（統計情報・実態調査結果）も掲載する。
 - ・一区あたり約十数ページを想定。
- ⇒ これまで別々に設定していた「基本理念」「基本目標」を統一化することによって、
一体的な施策を推進できる。
- ・区計画を補完する「独自ツール」（取組集などの冊子等）を作成する。

【第7期まで】



【第8期から】



(2) 計画の構成案

章	第7期計画	第8期計画	第8期内容案
第1章	計画策定の趣旨と地域福祉を取り巻く動向	計画策定の趣旨と地域福祉を取り巻く動向	・計画策定の趣旨・期間 ・統計資料（市全体の人口等の関連統計、実態調査結果） ・社協の地域福祉活動計画との連携等
第2章	川崎市における地域包括ケアシステム構築に向けた取組	川崎市における地域包括ケアシステム構築に向けた取組	・地域包括ケアシステム推進ビジョン ・第3段階における取組の進め方 ・第3段階における視点1～5に基づく取組の考え方 ・第3段階における重点取組 等
第3章	地域福祉の推進に向けた今後の取組の方向性	地域福祉の推進に向けた今後の取組の方向性	・地域福祉とは ・これまでの計画の進捗状況と市全体の課題等 ・計画の基本理念・目標 ・圏域の考え方（地域ケア圏域等） ・PDCAサイクル 等
第4章	市民一人ひとりが共に支え合い安心して暮らせるふるさとづくり	（題名検討中）	・視点1～5に基づく、全市的な取組や事業 例）健康・いきがいくづくり、住民参加、権利擁護（成年後見制度利用促進計画）、福祉施設整備、移動手段の確保、見守りネットワーク、認知症高齢者対策、ボランティア支援、災害時の体制構築、相談支援ネットワーク、保健・福祉人材の確保、虐待対応、地区カルテ、社協等
第5章	各区計画の概要	各区の計画	・区・圏域の概況 （区・圏域単位の人口等の関連統計、実態調査結果） ・区の生活課題・めざす姿 ・区独自の方針・取組、重点的な取組

※現時点での構成案であり、今後、具体的な検討の中で調整予定。

(3) 区計画ページ構成案

※青黒二色刷り

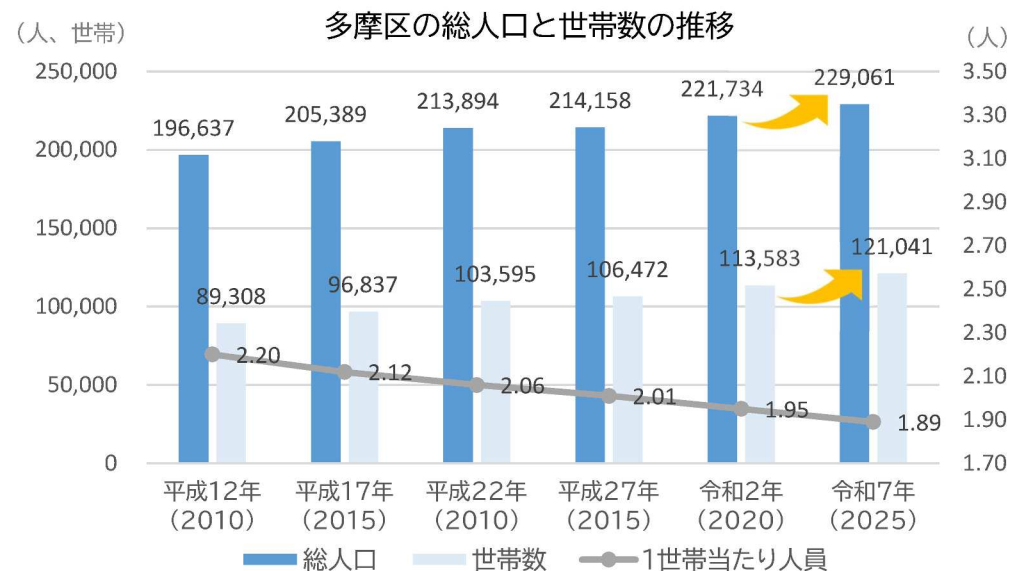
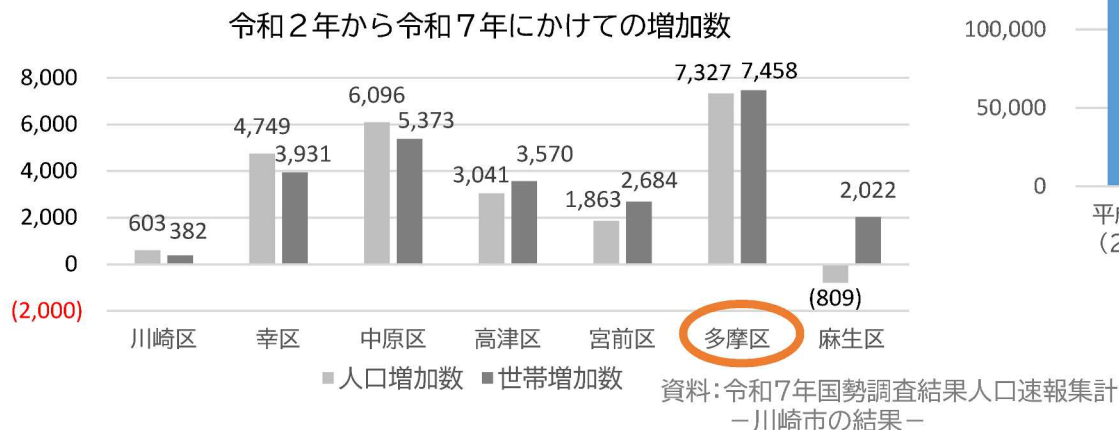
ページ番号	掲載内容
1（表紙）	
2	「多摩区のプロフィール」 多摩区の特徴、他区との比較データ
3～4	「地区の概況」 地域ケア圏域ごとの特徴、統計情報
5～6	「数字で見る多摩区」 統計情報・地域福祉実態調査結果
7	自由記載 （例）アンケート・ヒアリング調査から見える課題等
8	「第8期計画のポイント」 統計情報・実態調査結果から見える課題 第7期計画の振り返り・第8期につなぐ視点
9～12	「多摩区がめざす地域福祉－基本方針－」 多摩区の基本方針（ 3項目 ） 重点ポイント（取組例・めざす効果）
13～14	自由記載 （例）まとめやコラム、資料等



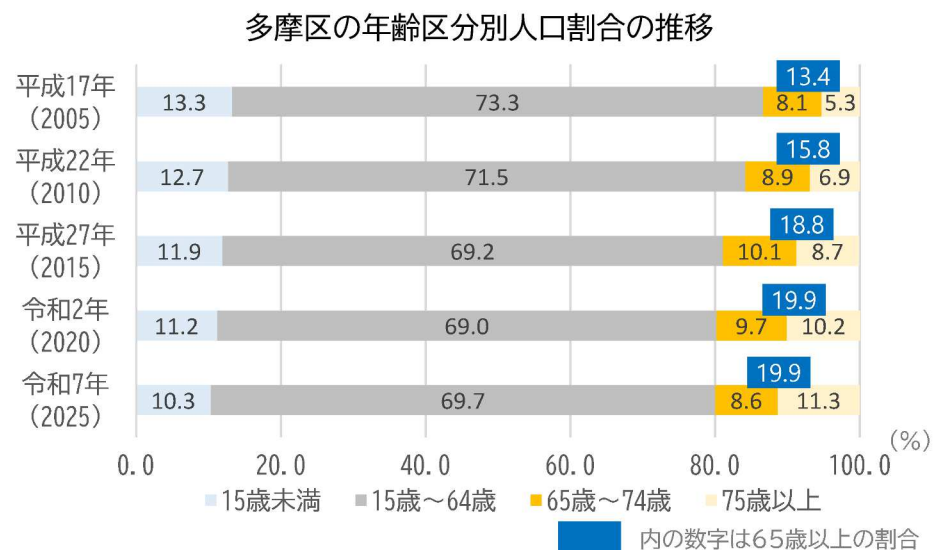
2. 多摩区の現況と課題

2 (1) 多摩区の現況と課題 (統計データ)

①人口・世帯数は増加傾向、
1世帯当たりの人員は減少傾向
人口増加数・世帯増加数ともに
多摩区がトップ

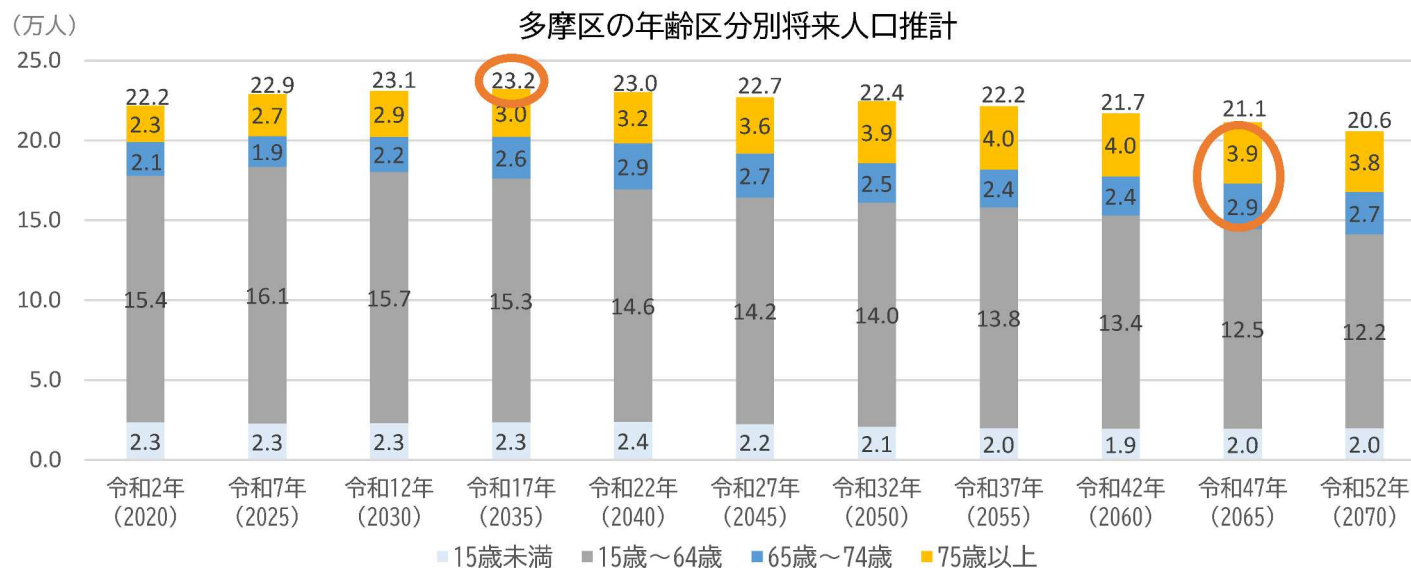


②年少人口の割合は減少し、
高齢者人口の割合が増加



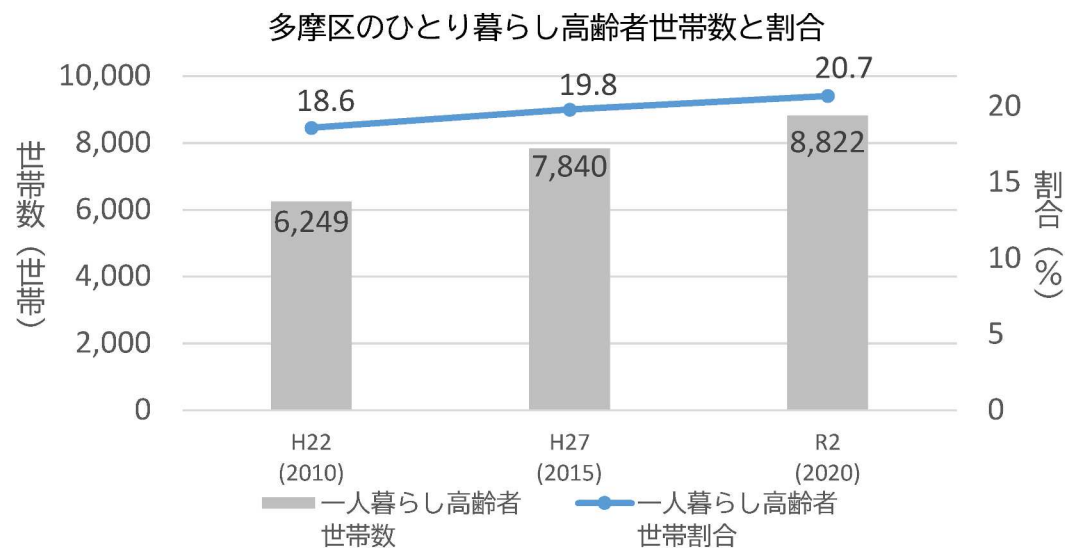
2 (1) 多摩区の現況と課題 (統計データ)

③総人口は2035年がピーク、
高齢者人口は2065年まで
増加する見込み



資料：川崎市総合計画の改定に向けた将来人口推計（令和7年5月）

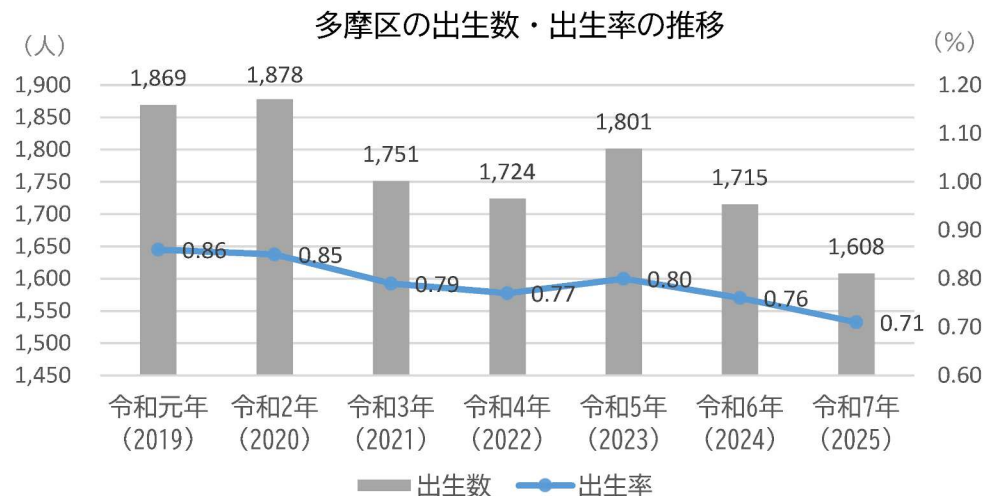
④ひとり暮らし高齢者は増加
（10年間で約1.4倍）



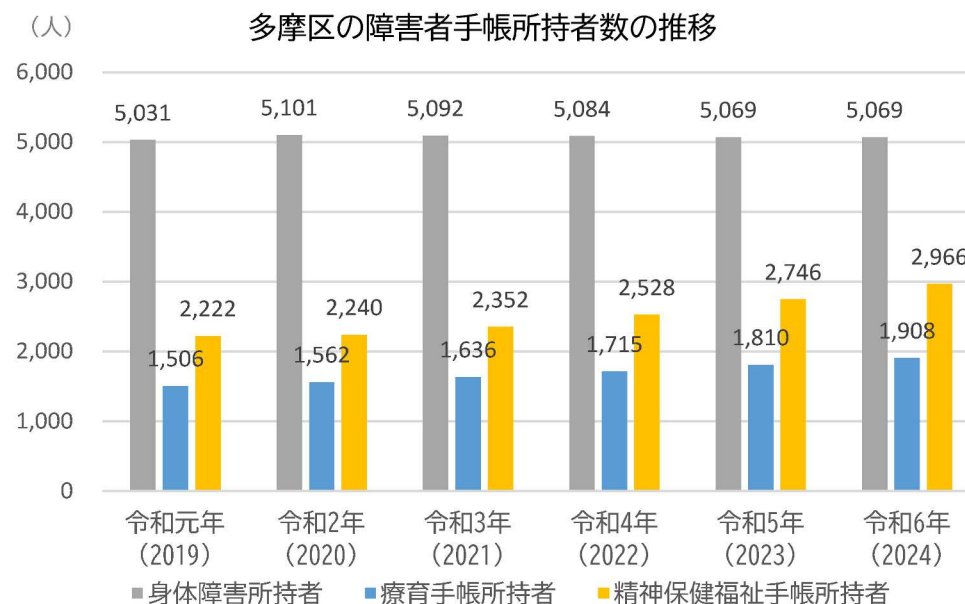
資料：国勢調査（各年10月1日現在）

2 (1) 多摩区の現況と課題 (統計データ)

⑤出生数・出生率は低下傾向

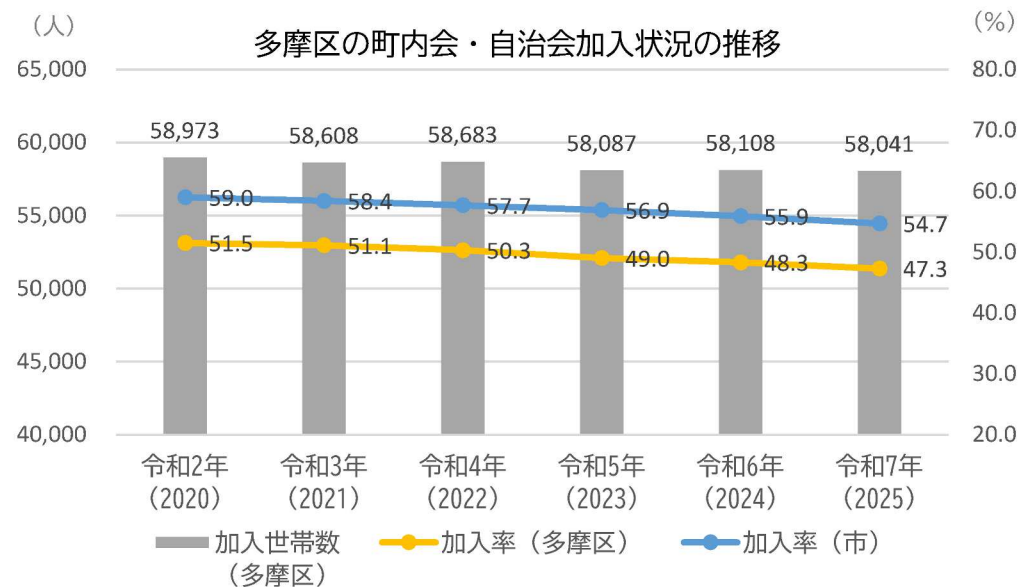


⑥障害者手帳所持者数のうち、療育手帳所持者・精神保健福祉手帳所持者は増加

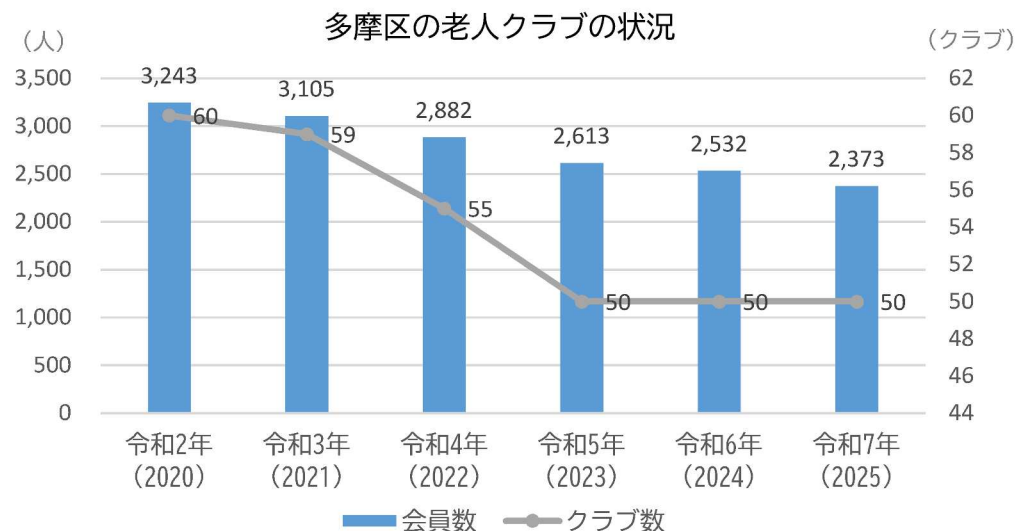


2 (1) 多摩区の現況と課題 (統計データ)

⑦町会・自治会加入率は市を下回り、低下傾向が続く



⑧老人クラブ会員数は減少



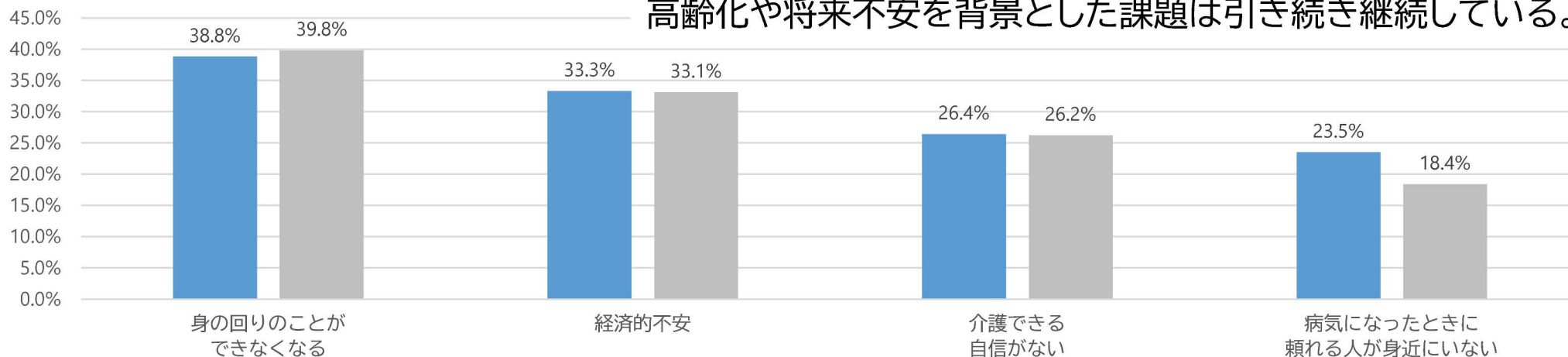
第6回実態調査（3年前）との比較 ※上位回答のみ抜粋

■ 今回
■ 前回(3年前)

①家庭生活で感じる不安

問17 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。

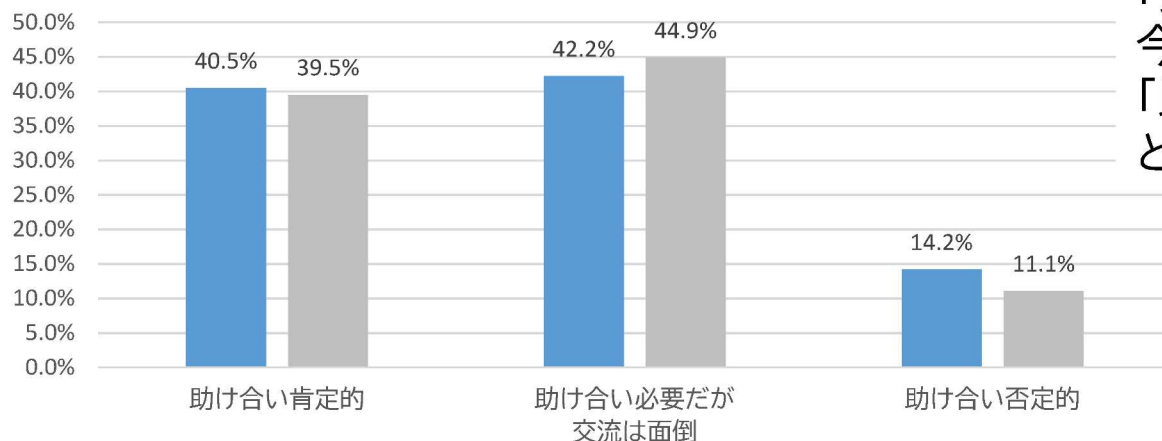
不安の内容・構造は、この3年間で大きく変化しておらず、
高齢化や将来不安を背景とした課題は引き続き継続している。



②近所づきあい・助け合い意識

問13 あなたは、近所づきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。

「交流回避の意識」は
今回調査でも解消されたとは言えず、
「助け合いは必要だが、日常的な交流は負担」
という意識が定着しつつある。



※選択肢の原文と内訳

【助け合い肯定的】

「地域で助け合うことは大切であり、そのためにふだんからの交流は必要だ」17.7 %

「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」22.8 %

【助け合い必要だが交流は面倒】

「困ったときは当然助け合うべきだが、日頃の交流は面倒なのであまりしたくない」42.2 %

【助け合い否定的】

「地域での助け合いは必要だと思わないが、地域で交流すること自体は大切だ」2.4 %

「地域との交流より、気の合った仲間やグループで交流し、その中で助け合えば良い」4.6 %

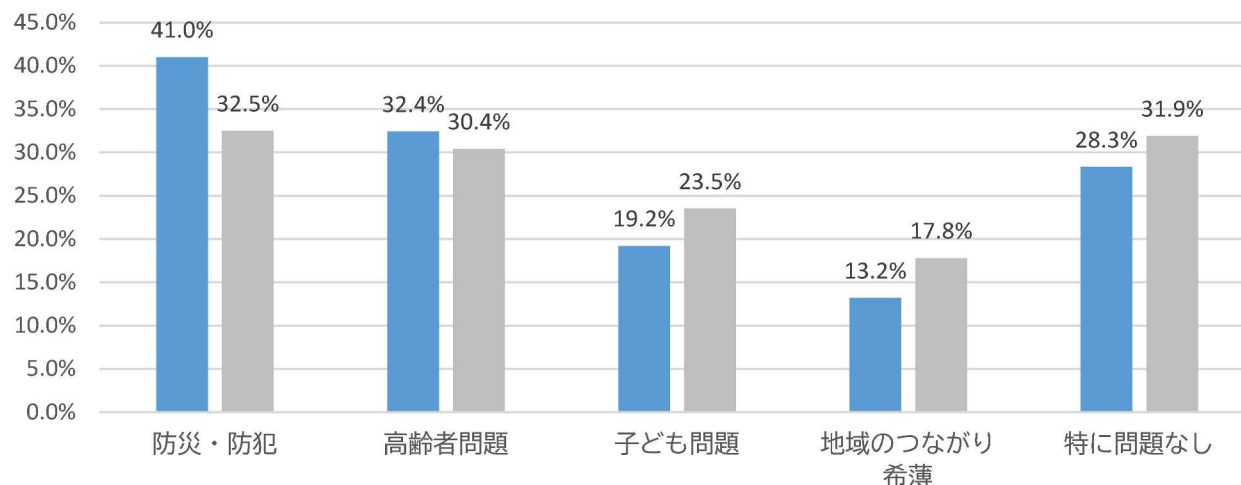
「困った時は行政などが支援すべきで、地域での助け合いや日頃の交流は必要ない」7.2 %

第6回実態調査 (3年前) との比較 ※上位回答のみ抜粋

■ 今回 ■ 前回(3年前)

③地域課題として何が意識されているか

問16 あなたは、その「地域」での生活において、いま何が問題だと感じていますか。

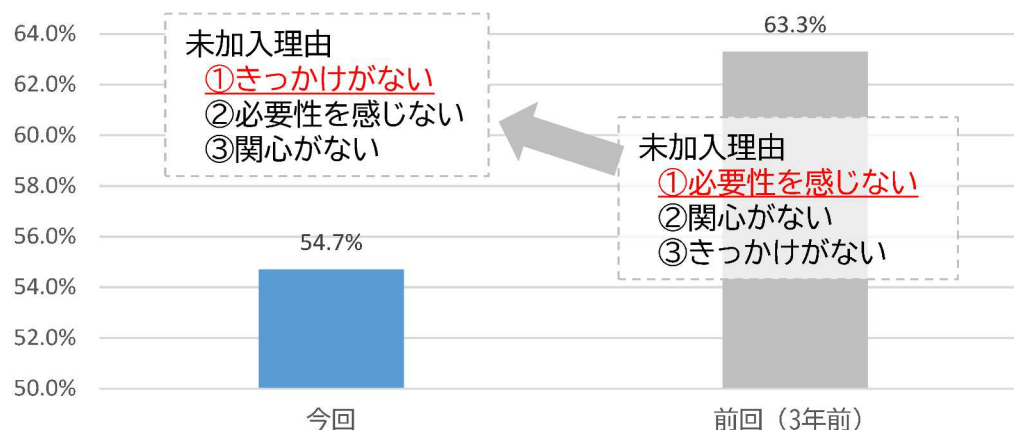


課題認識の順位は前回と一致。
防災の課題意識は大きく向上。

一方、「特に問題なし」と感じる層が一定数存在。

④町内会・自治会への加入

問14 現在、町内会・自治会に加入していますか。



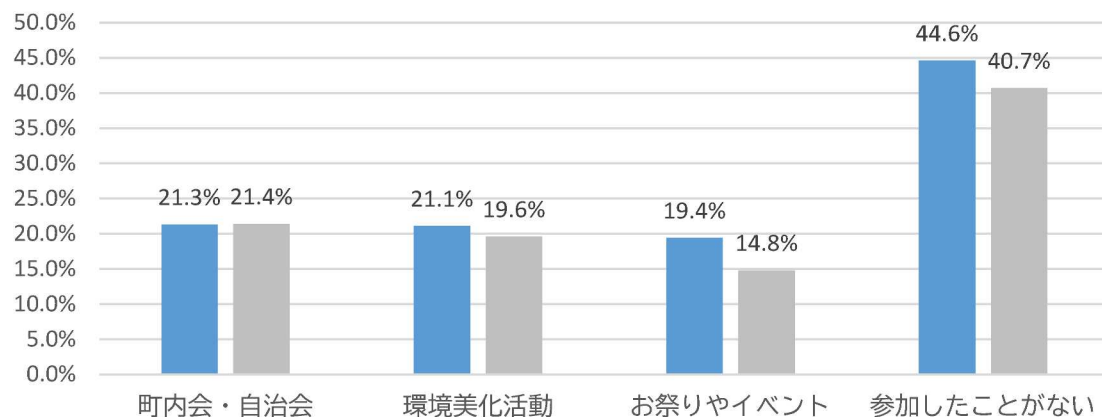
加入率は低下。
一方、未加入理由として「きっかけがない」の割合が上位に
⇒情報・きっかけ次第で加入・参加の余地あり。

第6回実態調査(3年前)との比較 ※上位回答のみ抜粋

■ 今回 ■ 前回(3年前)

⑤地域活動やボランティア活動

問34 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。



環境美化活動、お祭りやイベントに参加したことがあると回答した割合は微増。一方、参加したことがない方の割合も増加している。

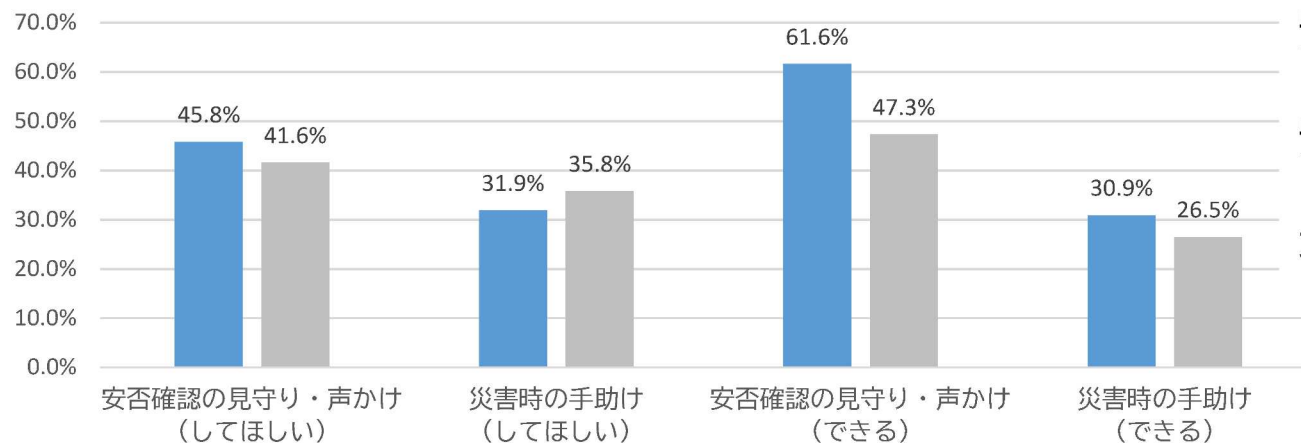
参加しない理由の上位は、「仕事や家事が忙しく時間がない」、「きっかけがつかめない」、「身近に活動グループや仲間がいない(知らない)」

⇒情報・きっかけ次第で参加の余地あり

⑥見守り・支え合い

問22 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。

問23 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。



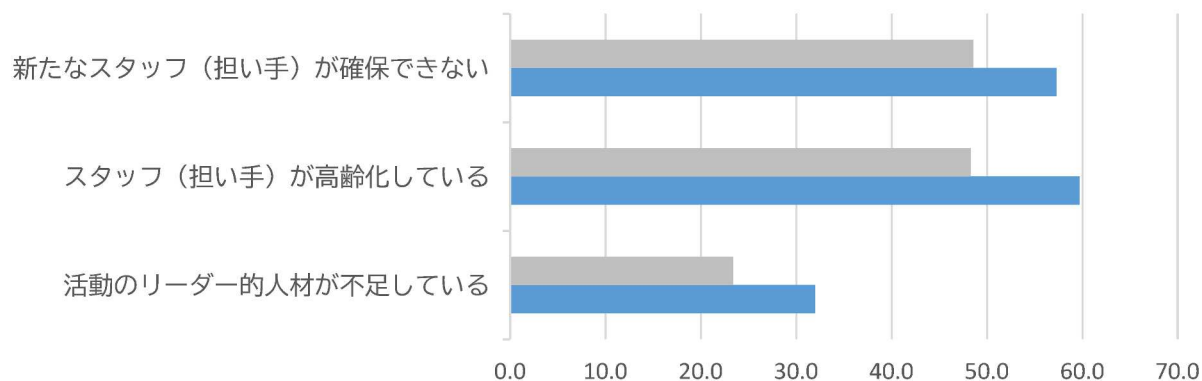
安否確認の見守り・声かけについて「してほしい」と回答した割合が増加。安否確認・災害時の手助けともに、「できる」と回答した割合がいずれも増加している。

団体アンケート調査結果 ※上位回答のみ抜粋

今回 前回(3年前)

①団体が感じている課題

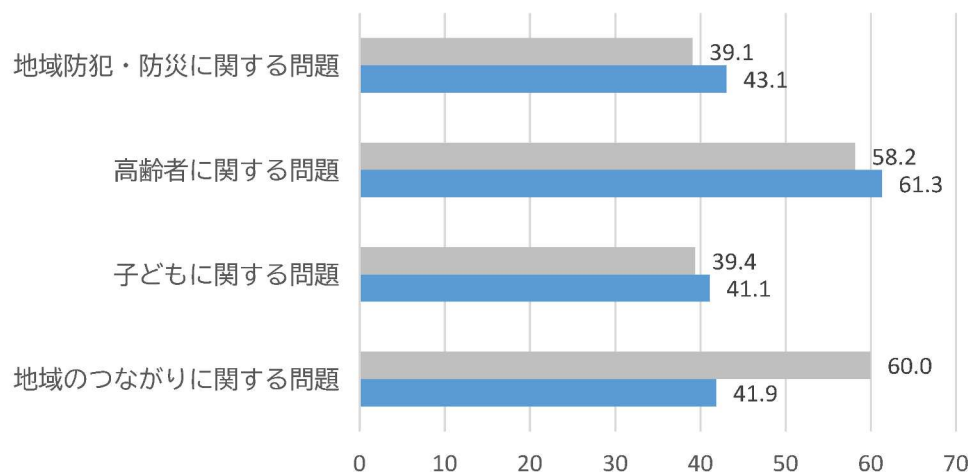
問9 貴団体が活動を行う中で、いま困っていることは何ですか。(〇は3つまで)



「スタッフ(担い手)が高齢化している」
「新たなスタッフ(担い手)が確保できない」
「活動のリーダー的人材が不足している」
の割合が前回調査と比較して大幅に増加

②「地域」での生活における課題

問18 貴団体では、その「地域」での生活において、いま何が問題だと感じていますか。



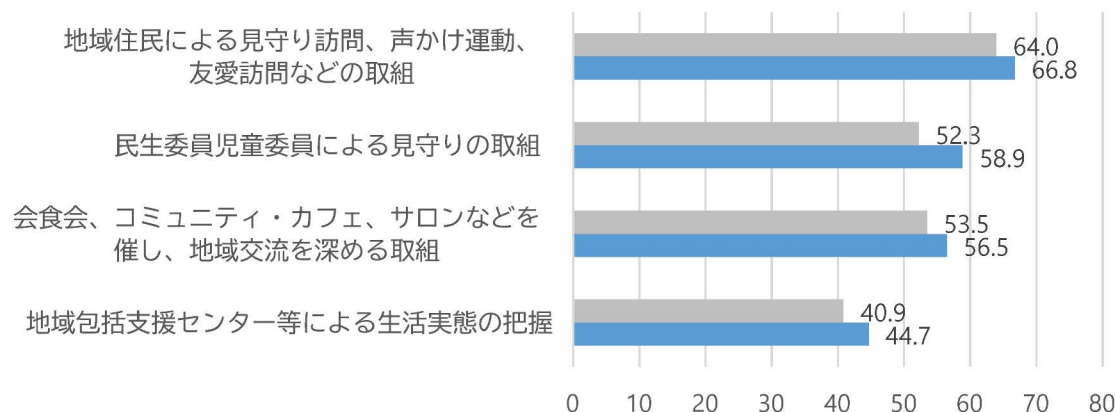
「高齢者に関する問題」の割合が
61.3%と最も高い
過去調査と比較すると、
「地域のつながりに関する問題」の割合は減少

(2) 多摩区の現況と課題（実態調査結果）

③地域での見守りの取組

今回 前回(3年前)

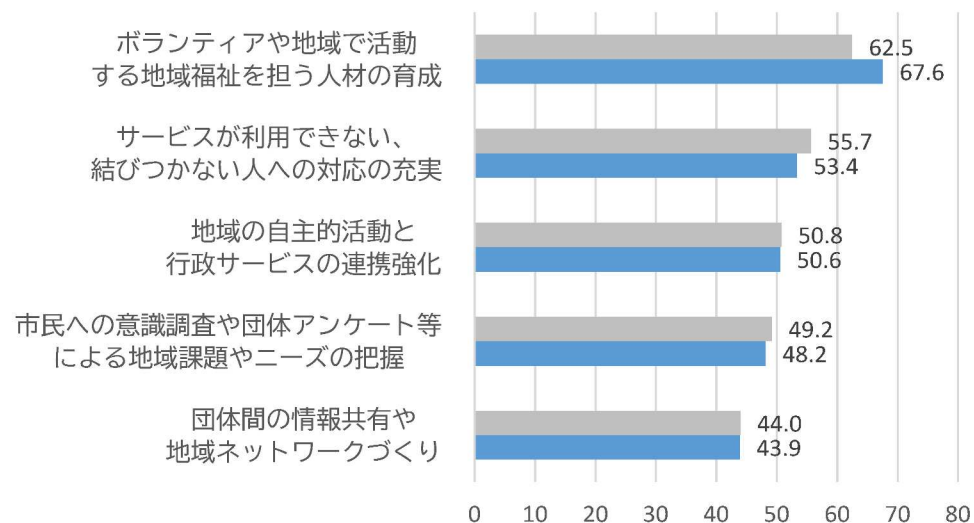
問19 社会的不安や孤独・孤立の問題に対応していくために、地域での見守りの取組として、有効だと思う取組はありますか。(〇は5つまで)



「地域住民による見守り訪問、声かけ運動、友愛訪問などの取組」の割合が66.8%と最も高く、前回調査と比較すると、「民生委員児童委員による見守りの取組」等の割合が増加

④行政が取り組むべきこと

問29 今後、地域福祉を推進していくために、行政が取り組むべきこととして、貴団体ではどのようなことが重要だとお考えですか。

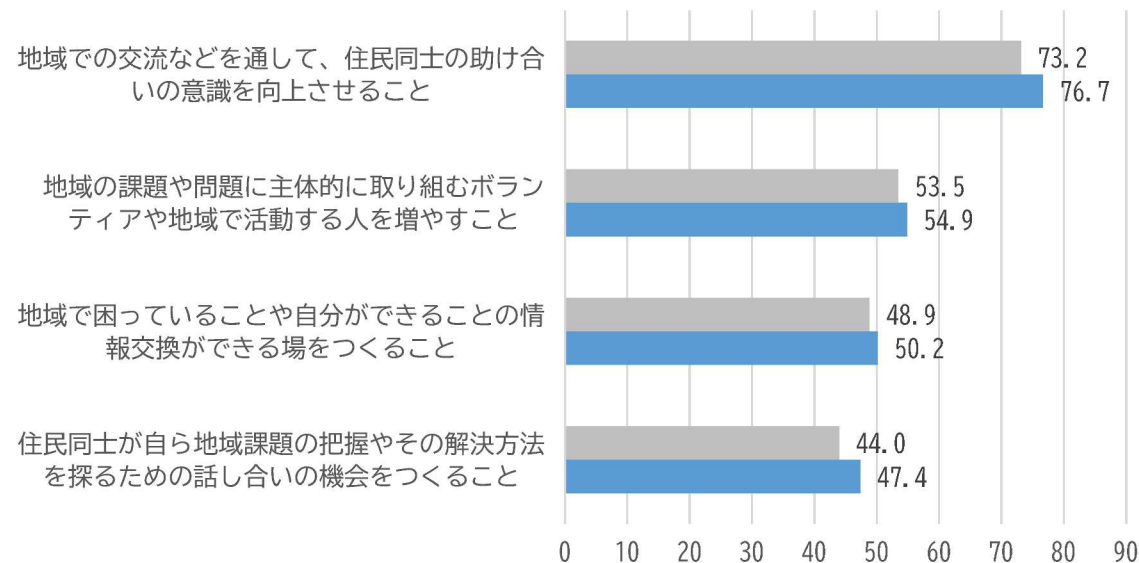


「ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成」の割合が67.6%と最も高い

今回 前回(3年前)

⑤市民が取り組むべきこと

問30 今後、地域福祉を推進していくために、市民が取り組むべきこととして、貴団体ではどのようなことが重要とお考えですか。



「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」の割合が76.7%と最も高く、過去調査と比較すると、大きな変化なし

2 (2) 多摩区の現況と課題（実態調査結果）

ヒアリング調査で指摘された主な課題認識

①地域活動の担い手不足

- ・高齢化により活動継続が困難
- ・地域活動の担い手が固定化し、新しい人が入ってこない
- ・大学生など若い世代との連携を望む声

②地域課題の重層化・複雑化への対応

- ・8050問題、貧困、障害、高齢、子育て困難が複合的に絡むケースが増加
⇒多分野・多職種が横断的に連携強化する必要性
- ・他分野・多職種間で顔の見える関係性を築くことの重要性
- ・行政に「地域・民間企業の柔軟な取組を後押しする役割」を期待する声

2 (2) 多摩区の現況と課題（実態調査結果）

ヒアリング調査で指摘された主な課題認識

③地域との「つながりにくさ」と相互理解の不足

- ・高齢者世代、子育て世代、障害の有無等の分断⇒相互理解の必要性
- ・小学校・中学校など学校教育現場との連携強化の必要性
（障害理解促進、疾病予防教育、地域福祉の普及啓発）
- ・本当に支援を必要としている人にアプローチすることの困難さ

④情報が「届かない」「伝わらない」問題

- ・「必要としている人」・「困っている人」に必要な情報が届いていない
- ・「自分ごと」と捉えられるテーマやメリットがなければ情報は見てもらえない
- ・地域の社会資源や人材の情報を把握する仕組みが不足
- ・個人情報保護の観点からくる情報共有の困難さ